

# 国語選抜試験

新小六

一 次の——線の読みを書きなさい。

- (1) 児童会長に任命される。  
母の言葉に逆らう。
- (2) 容易ならない事態となる。  
店の構えを考える。
- (3) 牛に飼料をあたえる。

二 次の——線を漢字で書きなさい。

- (1) じょうほうを整理する。  
毛糸でマフラーをあむ。
- (2) こくさい交流をはかる。  
新聞のゆうかんを読む。
- (3) さまざまなしかくを取る。

三 次の各問いに答えなさい。

問一 次の言葉の種類を、ア～カからそれぞれ選びなさい。

- (1) コーヒー皿
- (2) 努力する
- |         |          |          |
|---------|----------|----------|
| ア 漢語＋和語 | イ 漢語＋外来語 | ウ 和語＋外来語 |
| エ 和語＋漢語 | オ 外来語＋漢語 | カ 外来語＋和語 |

問二 次の文の主語を、ア～カからそれぞれ選びなさい。

- (1) ア 方言は、イ そこに、ウ 住む、エ 人々の、オ 気持ちを、カ 表します。
- (2) ア あそこに、イ 見える、ウ 白い、エ 建物が、オ わたしたちの、カ 学校です。

次の詩を読んで、問いに答えなさい。

せみ

丸山薫まるやまかおる

- 1 こまったことに、つくえの中で、
- 2 ふいにせみがあばれたした。
- 3 ジッジッジーと鳴いたりして。
- 4 みんながにやにやぼくを見た。
- 5 おや おや 教壇きょうだんから
- 6 先生がおりにてきた。
- 7 先生がぼくのそばに立って、
- 8 つくえのふたを おあけになった。
- 9 せみをつまんで、
- 10 教壇へもどってゆかれた。
- 11 ああっ！ と、ぼくはさげんだ。
- 12 立ちあがって、ぼくまで、
- 13 先生にひっぱられていった。
- 14 なぜって、
- 15 せみには糸がゆわえてあったんだ。
- 16 糸のはじは
- 17 ぼくの手の指にむすびつけてあったんだ。
- 18 みんながわらった。
- 19 なんて、ぼくはばかなんだろう。

問一 この詩の季節は、いつごろですか。漢字一字で書きなさい。

問二 1行目「こまったこと」とありますが、どのようなことにこまったのですか。最もふさわしいものを、ア～エから選びなさい。

- ア 先生に静かにするように注意されたこと。
- イ つくえの中のせみが弱ってきたこと。
- ウ 先生がみんなの顔を見回したこと。
- エ つくえの中でせみがあばれたしたこと。

問三 11行目「ああっ！ と、ぼくはさげんだ」とありますが、ぼくがさげんだ理由がくわしくわかる一続きの三行をさがし、行番号を書きなさい。

問四 この詩で、先生の動作に敬意を表す言葉が二つ使われています。一つは「ゆかれた」です。もう一つを詩の中から七字で書きぬきなさい。

次の文章を読んで、問いに答えなさい。

〔新聞社の記念企画で「夏の記者」に選ばれた佳代は、ある記者から、ある事件を調べることがやめるようにおどされた。自分が今まで一生懸命がんばってきたことが、ぜんぶ否定されてしまったように思えた。自分なんかもうどうしようもない役立たずと思えた。〕

夏の記者なんか、ならなきゃよかった……。自分なんかがなっちゃいけないかったんだ……。

体じゆうから、力が抜けおち、今にもその場に座りこんでしまいそうだった。涙がとまらなかった。

「それ、泣いてるんでしょね。」そのとき、聞き慣れた声が耳にとびこんできた。

「ど、どうしたのよ、お姉ちゃん……。」佳代は素早く涙をぬぐった。

「いつからここにいたの？」

「そうねえ、あの記者さんが携帯電話をしまいこんだあたりからかなあ。気づかなかった、すべり台の横に立ってたでしょ。」姉は、四、五メートル離れたところにある動物の形をしたすべり台を指さした。

「な、なんで、いたの？」

「なんでって、そりゃあ、かわいい妹を心配してじゃないの。」姉は、茶色い髪をかきあげながらにやにや笑った。

「なーんてね。本当いうと、母さんにたのまれたってわけ。店から電話があつてき、様子がへんだから、あんたたちの様子を見てきてくれていわれたのよ。それで、素早く公園の反対側から忍びこんでき、あんたたちの話に聞き耳をたてたってわけ。」

「母さんが？」

「そうそう。ああ見えて、うちのおふくろ様は心配性なのよ。とくにあんたみたいな世間知らずののんきな娘をもつてるとね、心配でしょうがないのよ。」

母親が自分のことを心配してくれていたとは意外だった。母親の頭の中は店のことでいっぱい、自分がやっていることにはほとんど無関心なのだと思っていた。

「それにしても、あの記者さん、なんか強引ねえ。新聞社を後ろ盾にして、小さい子どもをおどかすみたいになさ。」

姉は、いちばん高い鉄棒にぶらさがった。

「わたしにはよくわからない話だけだよ。」とにかくあんた、これで引きさがったりするわけじゃないんでしょね。」

くるりと前回りをする、姉はおおげさにポーズを決めた。佳代は、自分がもつと小さい頃、泣いているといつも姉がやってきてくれたことを思い出した。

「あんた、がんばんなきゃだめだよ。頭ごなしに、なんでもいうとおりにさせようなんてやりかた、わたし、大っきらいなの。自分のやりたいこともやれずにさ、ただ素直にしつぱをふるなんて、そんな忠犬ボチじゃないんだからさ。たまんないわよそんなの。少なくとも、わたしは許さないよ。」姉は強い口調でいった。

「わ、わかってるわよ。そんなことぐらい。」

佳代はもう一度涙を手でこすると、自分も鉄棒にぶらさがった。そして、前回りをして姉と同じように着地した。

(福田隆浩「夏の記者」より)

問一 文中の□にあてはまる言葉として最もふさわしいものを、ア～エから選びなさい。

ア くやしくて      イ かわいくて      ウ うれしくて      エ しんどくて

問二 ———線①「ここ」とは、どこですか。文中から二字で書きぬきなさい。

問三 ———線②「姉は、茶色い髪をかきあげながらにやにや笑った」とありますが、このときの姉の気持ちとして最もふさわしいものを、ア～エから選びなさい。

ア 佳代の意気地のなさにがっかりする気持ち。

イ 佳代をからかって元気を出させようとする気持ち。

ウ 佳代をどうにかして笑わせようとする気持ち。

エ 佳代のだらしなさにはらを立てている気持ち。

問四 ———線③「母さんが？」とありますが、佳代がこのような反応をしたのはなぜですか。その理由を文中の言葉を用いて書きなさい。

問五 ———線④「とにかくあんた、これで引きさがったりするわけじゃないんでしょね」とありますが、このように言ったときの姉の気持ちとして最もふさわしいものを、ア～エから選びなさい。

ア 大人のいうことには素直に従うべきだという気持ち。

イ 佳代がこれからどうするのかを心配する気持ち。

ウ 大人の強引なやり方にあきれはてる気持ち。

エ 記者のおどしに負けずに佳代にがんばってほしいと思う気持ち。

問六 この文章から、佳代の姉はどのような人物だとわかりますか。最もふさわしいものを、ア～エから選びなさい。

ア 家族だけを大切にす妹思いのやさしい人物。

イ 気が強くて、曲があったことが大きらいな正義感のあふれる人物。

ウ 相手のことを深く思いやることができな、自分勝手な人物。

エ 妹より年上であることを鼻にかけて、いばっている人物。

次の文章を読んで、問いに答えなさい。

- ① 夏の暑い日にさわやかなのは、たたみ表の織り目のでこぼこや、イグサの皮のでこぼこが、はたとたたみの間に小さなすきまを作って空気を通してくれるうえ、イグサの中のスポンジが静かにあせをすいとつてくれるからです。
- ② たたみ表をはがすと、下には稲<sup>いな</sup>わらを五センチほどの厚さにしっかりと重ね合わせた、たたみどこというものがあります。最近ではプラスチックのたたみどこもふえましたが、ここではわらのたたみどこのお話にしましょう。
- ③ 大そうじてたたみをほすのを見たことがあればわかるでしょう。やわらかいわらでできているのに、たたみはまるで一まいの板のようにしゃっきりと立っています。
- ④ たたみどこは、わらのむしろと、わらを重ねて作ります。ちょうど、何まいかのむしろの間にわらをはさんだ、大きなサンドイッチを、ぎゅつとおしつぶして、じょうぶな糸でとじたようなものです。むしろとわらは、せんの向きがたがいに直角になるように重ねます。わらのベニア合板といったらよいでしょう。たたみどこが一まいの板のようにしゃっきりしているのは、こんな構造のおかげです。
- ⑤ ところで、わらはストローのように中ががらんどうになっています。むかしのストローは、わらを切りそろえて作り出した、というより、もともとストローとは、麦わらを意味する英語です。麦と稲<sup>いな</sup>とのちがいはありますが、稲わらもやはりストローで、ストローの中にあるのは空気です。空気は熱を伝えにくいことは知っていますね。羽毛<sup>うも</sup>のはいったダウン・ジャケットや、綿のふとんがあたたかいのは、羽毛や綿の中にふくまれた空気が、着ている人の体温を外にのがさないからです。
- ⑥ たたみどこを作るとき、わらは上下左右からぎゅつとおしつぶされますから、ばらばらのときにくらべると、中の空気はずつとへってしまえますが、それでも少し残っています。たがいに直角に重ねられた、わらとむしろのすきまにも、やはり空気がありますから、たたみどこは一まいの板のように見えても、中にはいっぱい空気をとじこめているのです。
- ⑦ たたみのへやに、あたたかさを保つ力があるのは、もともと植物のせんいが熱を伝えにくいいうえ、たたみどこがふくんでいる空気がはたらいっているからです。
- ⑧ ドシン！ としりもちをついたとき、たたみどこは一瞬<sup>いつしゅん</sup>、中の空気をはき出してつぶれることで、おしりへのショックをやわらげます。
- ⑨ 足音や振動<sup>しんどう</sup>をすいこんでくれるのも、この空気をふくんだたたみどこです。
- ⑩ たたみが  ひみつは、このたたみどこの造りにあるといえるでしょう。
- ⑪ もし、たたみの厚さが一センチたらずのうすいものだったら、たたみはそれほどすくたしきものとはいえませんが。
- ⑫ たたみのすばらしさは、豊富に手に入る稲わらという材料を、五センチもの厚さにしっかりと重ねた知恵<sup>ちえ</sup>にあります。
- (注) しゃっきり——しっかりと立っている様子。      むしろ——植物で編んで敷物<sup>しきもの</sup>。
- (山口泰子「たたみのはなし」より)

問一 — 線①「たたみどこ」とありますが、これを説明した次の文の  A・B にあてはまる言葉を、文中から四字でそれぞれ書きぬきなさい。

・「たたみどこ」とは、  A の下に稲わらを  B ほどの厚さにしっかりと重ね合わせたものこと。

問二 — 線②「たたみどこが一まいの板のようにしゃっきりしている」とありますが、それはなぜですか。その理由として最もふさわしいものを、ア～エから選びなさい。

ア たたみどこは、わらのむしろとわらの間にベニア合板を入れて、じょうぶな糸でとじたものだから。

イ たたみどこは、わらのむしろとわらを同じ向きに重ねておしつぶし、じょうぶな糸でとじたものだから。

ウ たたみどこは、わらのむしろとわらの、せんの向きをたがいに直角に重ねておしつぶし、じょうぶな糸でとじたものだから。

エ たたみどこは、わらのむしろとわらをばらばらの向きに重ねておしつぶし、じょうぶな糸でとじたものだから。

問三 — 線③「たたみどこがふくんでいる空気」とありますが、この空気のはたらきを、 7 ～  9 段落の言葉を用いて、まとめて書きなさい。

問四 文中の  にあてはまる言葉として最もふさわしいものを、ア～エから選びなさい。

ア たいへんやわらかく、あつくてつめたい

イ ひじょうにかたく、あつくてすずしい

ウ かたくてやわらかく、あつくてつめたい

エ かたくてやわらかく、あたたかくてすずしい

問五 この文章で筆者が最も述べたかったのは何段落ですか。段落番号を書きなさい。